

山手智夫院長が食物アレルギー講演

「エピペンは迷わず正しく打つ！」

保育協会光支部研修会で実演・体験も

県保育協会光支部（渡邊正善支部長）の保育士研修会が二十二日、ホテル松原屋で開かれた。やまと小児科・アレルギー科の山手智夫院長が『こどものアレルギー特にエピペルギー』と題して講演した。

フライカキシー（短時間に全身にあらわれる激しい急性アレルギー反応）シヨックで、生命にかかわることもあるため、症状を一時的に緩和する自己注射剤『エピペン』の正しい使い

たことを紹介。「アレルギーは重症化、低年齢化しています。体质なので、完全には治りませんが、良い食物を体に入れ、症状を眠らせることはできます」と話した。

原因の主な食物は、卵、牛乳、小麦だが、最近多いのがフルーツ。卵、牛乳、小麦だが、最もアレルギーの子供が増えており、アナ

たり、ヒリヒリするのは□腔アレルギー症候群です」と説明した。また、食物アレルギー治療で大事なのが、食事指導。食べる量、調理法、体調によつても症状が違うため、「何をどう除くかではなく、何をどう食べるかが大切」と話した。

山手院長は三男があり、研究・治療を始めた。『エピペン』の使い方について学んだ。山手院長は三男があり、研究・治療を始めた。『エピペン』の使い方について学んだ。



エピペンの打ち方と場所を説明する山手院長